

報道関係者各位

慶應義塾大学 SFC 研究所

## 新しい資源循環を実現したまち「Vortex City」の構想を発表 —未来の循環型社会構築にむけてコンセプト動画を共創—

慶應義塾大学 SFC 研究所（神奈川県藤沢市、所長：飯盛義徳 総合政策学部教授）と、大成建設株式会社（東京都新宿区、代表取締役社長：相川善郎）は、新しい資源循環の概念「Vortex Economy」を実現した未来のまち「Vortex City」を描いたコンセプト動画を共同で制作し、「慶應義塾大学 COI-NEXT 鎌倉サテライト研究拠点開所記念・キックオフシンポジウム『リスペクトあふれる循環創造社会を目指して』」（6月4日開催、慶應義塾大学 SFC 研究所主催）での上映とともに、コンセプト動画の一般公開を開始しました。

慶應義塾大学と大成建設は、共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）【地域共創分野・育成型】「デジタル駆動超資源循環参加型社会共創拠点」（プロジェクトリーダー：田中浩也 環境情報学部教授）※1の研究活動の一環で、未来の資源循環社会について検討を進め、新しい資源循環の概念「Vortex Economy」を考案しました。この概念は、近年、社会に広がっている環境への意識を向上させ、資源を循環させるサーキュラーエコノミー※2の概念を発展させた経済モデルです。新たな概念では、他産業を含めたさまざまな資源を次々とつなげ、転用していくカスケード利用を進め、これまでは有効活用されなかったプラスチックなどや自然から発生する不要物も含め、ごみを資源に、さらに資源から、まちの資産へと積極的に価値を高めていくことを目指すものです。

今後、慶應義塾大学と大成建設は、新しい資源循環方式である「Vortex Economy」を取り入れたまち「Vortex City」について、デジタル駆動超資源循環参加型社会共創コンソーシアム※3にて新たな分科会を設置し、コンソーシアム参加者とともに未来の循環型社会のあるべき姿を検討しながら、その実現に向けて取り組んでまいります。

### 【「Vortex City」コンセプト動画へのアクセス】

デジタル駆動超資源循環参加型社会共創拠点 [https://www.youtube.com/watch?v=ZrBCP67\\_I-A](https://www.youtube.com/watch?v=ZrBCP67_I-A)



※1 デジタル駆動超資源循環参加型社会共創拠点

慶應義塾大学 SFC 研究所が『国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）【地域共創分野】』へ鎌倉市らとともに応募し、育成型として採択され、設立した研究拠点。この拠点では、鎌倉市を主たる実験フィールドとして、プラスチック等の資源循環の実現と、創造的なサーキュラーエコノミーの実現へ向けて、必要となる POC（Proof Of Concept：概念実証）を、大学、企業、市民、自治体がともに共創し、具現化するための活動を推進する。ここから「鎌倉－慶應モデル」と名付けた先進事例や優良事例を作り、日本から世界に発信し、新しい産業と循環型経済を創成することを目的としている。

※2 サーキュラーエコノミー

「大量生産・大量消費・大量廃棄」という資源の流れから、生産と消費を循環させる概念。

※3 デジタル駆動超資源循環参加型社会共創コンソーシアム <https://coinext.sfc.keio.ac.jp/>

※1における研究活動を推進するため、慶應義塾大学 SFC 研究所が設立したコンソーシアム。大学、自治体、民間企業、団体等、さまざまな分野から 20 社以上が参加している。

【田中浩也教授のコメント】

共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）【地域共創分野・育成型】は、大学の研究ありきではなく、はじめに未来のありたい地域の社会像を策定し、その達成に向けて、バックキャストによる研究開発を行うこと、産官学民の共創を実現することがポリシーとされています。2021 年度から活動を開始したわれわれは、まず異業種の集まる「デジタル駆動超資源循環参加型社会共創コンソーシアム」を発足させ、現在では 20 社を超える参画企業が、一企業の中だけで完結するサーキュラービジネスのさらに先にある、企業間をまたいで新たな循環の輪をつなぎ、重ねていく未来像に関して活発に議論しています。

その上で私たちは、日々議論している未来のイメージを、誰にでも伝わりやすい動画というかたちで発信したいと考えました。特に今回の動画制作は、第一に企業の視点ではなく、市民の暮らしの視点から未来の物語を紡ぐこと、第二に具体的な「まち」全体の姿や新しい「施設」のイメージを含めること、第三に大学の研究がいきいきと社会実装されていく可能性を伝えること、の 3 点に挑戦したいと考えたものです。大成建設株式会社の技術センター技術開発戦略室、設計本部先端デザイン部とわれわれが共同で制作した素案がもとになり、本学の学生が立ち上げた株式会社 IDENCE の突出した 3DCG 映像制作技術によって完成に至りました。

今後は、この構想を具体化すべく、コンソーシアムでの検討を深めていくと同時に、地域研究フィールドの充実化をはかり、次年度以降のパイロットプロジェクトを企画していきたいと考えています。

※本プレスリリースは、新聞各社社会部等に配信しております。

【本件についてのお問合せ先】

慶應義塾大学 SFC 研究所 デジタル駆動超資源循環参加型社会共創コンソーシアム

E-mail: [dmec@sfc.keio.ac.jp](mailto:dmec@sfc.keio.ac.jp)

【配信元】

慶應義塾大学 湘南藤沢事務室 学術研究支援担当

E-mail: [kri-pr@sfc.keio.ac.jp](mailto:kri-pr@sfc.keio.ac.jp)